

登録コード:MH409200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	精神障害評価学実習【20MJ以降】 Occupational therapy assessment for mental health		
担当教員	田中 佐千恵		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/2年 前期 水曜・1時限 水曜・2時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科OT実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	精神保健領域の作業療法の評価技法（面接・観察・検査・調査）を修得し、情報収集・分析・統合に基づく思考力と問題解決能力をさまざまな状況で活用できる。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	臨床家に不可欠な「参加観察」とコミュニケーションの基礎技法（言語的・非言語的）を意図的に利用できる。
授業で学べる「テーマ」	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	評価方法の適切な選択基準と実施時の倫理的原則を説明できる。
	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	精神保健領域の作業療法で用いられる評価の方法を学習します。評価法の一部をテーマ別にグループで事前学習し、レジュメを作成し発表します。また、学生同士がペアとなり、個人の生活課題に関連するアセスメントを相互に実施し、結果をまとめて発表します。検者・被験者の体験学習を通して、対象者を理解する方法論について理解を深めることを目標とします。この授業は後期の「精神障害作業治療学Ⅰ」、3年次の「精神障害作業治療学Ⅱ」および「精神障害作業治療学特論」と関連のある、精神障害領域の作業療法評価の方法を学びます。 本授業では、担当教員の精神医療・保健・福祉領域の作業療法実践の経験を活かして講義と実習を行います。		
授業計画	第1回(4月15日)精神保健領域の評価・アセスメント概要 第2回(4月22日)情報収集と作業面接、実習とレポート作成の指針 第3回(4月30日)質問紙法 ①生活形態の調査,②作業経験/興味調査,③基本的生活行動調査,④生活用品/器機/社会資源利用調査,⑤SMSF 第4回(5月13日)作業検査;⑥内田クレペリン検査 第5回(5月20日)作業検査;⑦箱づくり法 第6回(5月27日)職業関連;⑧VPI職業興味検査, ⑨職業適性検査 第7回(6月 3日)心理検査;⑩TEG,⑪POMS, 投影法;⑫人物画,⑬自由画 第8回(6月10日) 集団/対人交流技能;⑭SST 第9回(6月17日) *課題発表: (発表時間7分×20人) 1) 人物画(描画), 2) アジマバッテリー, 3) ロールシャッハテスト, 4) SCT文章完成法, 5) LASMI, 6) Rehab, 7) OSAⅡ, 8) Self-Efficacy Scale, 9) RAS, 10) IMI, 11) SFS, 12) SASS, 13) CSQ-8J, 14) BACS-J, 15) SCORS-J, 16) UPSA-B, 17) PANSS, 18) BPRS, 19) HDRS, 20) QIDS-J 第10回(6月24日) レポート発表-1 第11回(7月 1日) レポート発表-2 第12回(7月 8日) レポート発表-3 第13回(7月15日) レポート発表-4 第14回(7月22日) レポート発表-5 第15回(7月29日) レポート発表-6 第16回(8月 5日) まとめ(授業アンケートの実施) *最終レポートの提出締めきり(8月30日)		
授業の進め方	講義, 実習, 課題発表, 演習(レポート発表)の流れで進めます。第3回(4月30日)から第8回(6月10日)の①-⑭の調査等は、学生相互の評価実習で実際に行います。第9回(6月17日)の課題発表では、事前に担当する評価尺度を文献/web調査し、概要をレジュメにまとめ当日発表します。実習はペアになった学生との協働作業で進行しますが、時間外に及ぶこともあるので協力しあって実施してください。		
テキスト, 教材, 参考書	参考書: 1) 生田宗博・編, 日本作業療法士協会監修: 作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学, 協同医書出版社。 2) 岩崎テル子他・編: 標準作業療法, 作業療法評価学, 医学書院 教材: 市販されているマニュアル等は別途購入(TEGⅡ実施マニュアル, VPI職業興味検査, 労働		

テキスト，教材，参考書	省編一般職業適性検査）。その他の質問紙および「実習レポート作成の手引き」は授業のなかで配布します。
成績評価の方法	評価の配分は，課題発表30%，レポート発表30%，最終レポート40%とし，総計の60%以上の得点を合格とします。レポート発表は第10回（6月24日）から第15回（7月29日）にかけて行い，実習レポートは，記述方法，データ解釈，論理的な考察，被験者に対する適切なコメントなどを評価します。また，レポート発表後には教員が発表内容に関するフィードバックを行います。 本科目は実習・演習科目であり，一定程度の経験が必要で個別の補充に限界があるため，欠席が多い場合には成績に影響する場合があります。
成績評価の基準	課題発表，レポート発表，最終レポートなどで総合的に評価します。判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお，これらの採点の基準は，達成目標に挙げた項目と，授業の中で提示する「実習レポート作成の手引き」に沿って，レポート記述および発表内容の充実度，すなわち，正確で詳細な記述，考察の広さや詳細さ，記述・発表内容の論理的な妥当性などを指標とし，授業で説明した範囲における最低限の記述・発表内容であれば「水準にある」，やや詳細な記述・発表内容であれば「やや上にある」，十分に詳細な記述・発表内容であれば「かなり上にある」，授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な記述・発表内容であれば「卓越している」と判定します。 レポートの草案作成において生成AIの利用を許可しますが，最終的な成果物は学生自身の言葉で記述される必要があります。成績評価にあたり，提出物に関する質疑応答や口述試験を行い，学生本人の理解度を直接確認することで，厳格な評価を行います。 また，実習で知り得た個人情報等をAIに入力しないよう注意してください。
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします。授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 【事前学習】 毎回の授業の終わりに次回までに予習してくる検査法を指示します。 【事後学習】 毎回の授業の終わりに実習レポート作成に活かす評価の視点を解説します。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	ペアで実習を行うので相手に迷惑をかけないように，遅刻・早退・欠席をしないよう注意してください。個人情報を扱うことになるので，情報の適切な管理，被験者に対する誠実な態度などの倫理的配慮を身につけてください。 質問への対応：田中佐千恵 sachifuk@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時